

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充及びC型肝炎患者の救済の延長を求める意見書

現在、ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成は、肝炎治療特別促進事業として実施されている。しかし、対象となる治療法が限定されているため、医療費助成の対象から外れる患者が相当数にのぼっている。特に、肝硬変・肝がん患者は高額な医療費を負担せざるを得ないだけでなく、就労不能の方も多く、生活に困難を来している。

また、肝硬変を中心とする肝疾患は身体障害者福祉法上の障害認定（障害者手帳）の対象とされているものの、医学上の認定基準が極めて厳しいため、亡くなる直前でなければ認定されないなど、現在の制度は、肝炎患者に対する生活支援の実効性を発揮していない。

肝硬変・肝がん患者は、毎日120人以上の方が亡くなっており、医療費助成を含む生活支援の実現は、一刻の猶予もない課題である。

平成17年に「特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法」が制定された際、「とりわけ肝硬変及び肝がんの患者に対する医療費助成を含む支援の在り方について検討を進めること」との附帯決議がなされている。

平成30年度厚生労働省予算の概算要求に、肝がん治療に対する医療費助成が盛り込まれた。肝硬変の治療が対象となっていないなどの課題も残されているが、新たな医療費助成制度の予算化を確実にしつつ、肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成を含む生活支援について一層の充実を目指す必要がある。

また、「特定フィビリノゲン製剤及び特定血液凝固第Ⅸ因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」に基づく給付金の請求期限が平成30年1月15日に迫っている。汚染された血液製剤によって1万人以上が感染したとされるのに、これまでに救済を受けたのは約2300人と、感染推計者数の2割強にとどまる。被害者を探すカルテ調査は継続しており、現在もなお救済されていない被害者が多く残されている。また、自分が感染者だと知らないまま肝がんや肝硬変など重症化している人も多い。

よって、国会及び政府におかれては、下記の事項を講じられるよう強く求めるものである。

記

- 1 ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設すること。
- 2 一人でも多くの患者を救済するため、「特定フィビリノゲン製剤及び特定血液凝固第Ⅸ因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」を改正し、請求期限を延長すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年12月13日

宮 崎 県 議 会

| | | | | | | | | | |
|----------------------------|-------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 衆 参 内 財 厚 内 | 議 議 閣 | 院 院 総 務 生 関 | 議 院 理 大 大 長 | 長 長 臣 臣 臣 官 | 大 伊 安 麻 加 菅 | 島 達 倍 生 藤 | 理 忠 晋 太 勝 義 | 森 一 三 郎 信 偉 | 殿 殿 殿 殿 殿 殿 |
|----------------------------|-------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|